

優秀賞

中学生部門へいきいきした作品

横須賀市立衣笠中学校 3年

中間 果帆

私と私

幼稚園の頃、先生から「自分の名前の意味を聞いてきて下さい」という宿題を出された。私の名前は母と母の友人が考えてくれたそうだ。父も案を出したが、あえなく却下されたらしい。

果帆、と書いて、かほ、と読む。別段珍しくもない。ありきたりでもない。

「なんで、かほなの？」

「勇猛果敢の果と、順風満帆の帆だよ」

母は得意顔で教えてくれた。年中だった私には言葉の意味が分からなくて、勇猛果敢と順風満帆、それぞれについて再質問した。

「勇猛果敢っていうのは、怖いものなしで突き進む事で、順風満帆は船が進む為の大きな布が良い風を受けて船が進む事だよ」

強そうだな、そんな人がいたら凄いな、と思った。うかんだのは戦場で勇ましく先陣を切る女戦士。

そして私は中学生になった。

今年、体育祭の応援団長になっている。サッカー部では副部長、地区の女子サッカー強化講習会ではキャプテンを務めた。他にも学級委員会の書記、修学旅行の実行委員長、たくさんの役目をいただいていた。

勇猛果敢に、帆は目一杯に風を受けて。私の名前は私の剣であり、盾であり、鎧でもある。母に意味を教わった時から「名は体を表す」でいたいと思い続けてきた。本当は怖がりで、泣き虫で、寂しがり屋だけど、見栄を張って、平静を装って、豪快に笑っている。なるべくそう振る舞っている。

それで良いと思う。周りに見える私は繕われた外面だとしても、その外面を生み出しているのは結局内面だ。だから、私の心はそんなに弱くもないのかもしれない。外面の私、内面の私、どっちだって私なのだから、そんなに大差ないの
だろう。きっと私の心も実は勇猛果敢であるに違いない。そして私は、そんな私自身がけっこう好きで、私と私の相性はすこぶる良いと言える。